

【見学概要】

日時：2015 年 10 月 1 日（木）8：30～17：30

場所：京都市水道局琵琶湖疏水記念館、疏水取入口、積水化学工業（株）栗東工場

内容：製造工程並びに技術説明

(1) 京都市水道局 琵琶湖疏水記念館及び疏水取入口

今年が琵琶湖疏水竣工 125 周年ということもあって、見学対象として選定した。

～写真でたどる琵琶湖疏水の今昔～と題する記念のパネル展が開かれ、琵琶湖疏水建設当時の貴重な写真などから琵琶湖疏水の歴史を振り返ることができた。説明は、歴史学博士で、学芸員でもある白川哲夫氏に行なっていただき、疏水の建設の他、日本初の水力発電所の建設、市電や産業への電力利用などを興味深く聞くことができた。滞在時間が短く、残念な思いであった。記念館を出て、疏水から流下した水の流れる疏水端を歩き、岡崎動物園前からバスに乗り、疏水取入口のある大津へ向かう。疏水取入口は第一と第二の2か所あり、往時の雰囲気を残している疏水に沿って小雨の中を歩いて三井寺に向かった。トンネルの入り口の上には「萬物資始」や「気象萬千」の扁額がかけられていた。当時の著名人の揮毫による全部で 10 枚の扁額が掲げられてあるとのことであった。

(2) 積水化学工業 栗東工場

午後は、雨の中栗東に向かい、工場の見学である。はじめに、製品や技術に関するビデオを鑑賞し、塩ビ管の製造過程の見学へ。工場は、基本的に無人である。押出成型から、冷却、切断までを、まさに一本のラインで製造が完了していたのには驚かされた。各ラインには、生産装置の管理担当者決められており、それぞれの思いが言葉で書かれており、あちこちに掲げられた安全や品質管理に関する掲示とともに、会社並びに社員の品質や安全に対する思いを強く感じる事ができた。展示ホールでは、プラスチック成型加工を利用した管材、用途に応じた特性を持つ塩ビ管、FRP 製品、ライフラインの更生工法として用いられている「オメガライナー工法や SPR 工法」、急こう配の傾斜地に利用される下水道の「高落差処理用シャフト（マンホール）」など、各製品を身近に見ることができた。技術説明は、傾斜板沈降装置を供給するだけでなく、より効率的な運用の提案に関する研究についての講演を聞かせていただいた。要旨は、コンピュータ解析を利用し、装置内での短絡流の発生をいかに抑制するかを検討することで効率的な改善方法の発見が可能としているとのことであった。その他、「最終沈殿池への傾斜板設置に関する共同研究の概要」と題する講演があり、既設の最終沈殿池に傾斜板の設置により、放流水中の汚泥の補足が可能かであるかがテーマであった。設置による効果は確認できたが、更なる実証試験の継続が必要であるとのことであった。講演を終わり、帰阪の頃には雨も上がり、京都～滋賀県の秋の見学ツアーも無事終了した。